

会 議 の 要 旨 （ 議 事 録 ）

会 議 の 名 称	第 1 回鳥栖市総合計画審議会		
開 催 日 時	令和 7 年 9 月 1 1 日（木）	開 催 場 所	鳥栖市役所 1 階多目的ホール
出 席 者 数	委員 1 1 人 事務局 5 人	傍 聴 人 数	2 人
議 題	(1)市長挨拶 (2)諮問書の提出 (3)第 7 次鳥栖市総合計画の策定方針について (3)第 7 次鳥栖市総合計画の素案について		
配 布 資 料	・ 会議次第 ・ 総合計画審議会資料 1 ・ 総合計画審議会資料 2		
所 管 課	（課名） 総合政策課 （電話番号） 8 5 - 3 5 1 1		

第1回鳥栖市総合計画審議会 議事録

- 1 開会
- 2 市長挨拶（議題1）
- 3 審議会委員の紹介
- 4 諮問書の交付（議題2）
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 第7次鳥栖市総合計画の策定方針について（議題3）

<事務局より説明>

（会長）

ただいま、第7次鳥栖市総合計画策定の策定方針について説明いただきました。

後期では、総合計画と総合戦略の一本化、施策ごとの主な取り組みと指標の更新、土地利用計画の追加が策定のポイントとなります。

また、スケジュールとしては、12月議会への素案の提出に向けて非常にタイトなスケジュールとなっております。

事務局の説明について、意見・質問がございましたらお願いしたいと思います。

（委員）

土地利用計画について、このような土地の利活用に関する事項は、都市計画審議会等の専門的な機関に審議し進めていくものかと思うが、本会議の役割はどのような位置づけか。

（事務局）

土地利用計画は、都市計画よりもっと大きな視座に立ち、市の土地利用の方向性を示すものとして審議いただきたい。

（会長）

総合計画と戦略の一本化によって総合計画はどのように変わるか。出発点は違うものの、目指すところが似通っているため、今回一本化を図ろうということと認識している。

（事務局）

お見込みのとおり。取り組みと目標を共有することで、一体管理することができるようになる。総合計画に戦略の要素を加える。

（委員）

我々は土地利用計画について何を議論したらいいのか。何をもってゾーニングしていくのか。

（事務局）

先ほどご意見にも出た都市計画を始め、各種法規制や他の土地利用に関する計画を踏まえ、市の考えに基づき大まかなゾーニングをしたうえで、皆様にお示しする。そちらについてご意見いただけたら。

（委員）

鳥栖市には、例えば学童が少ないなど、住宅だけでなく様々な面で土地がないという印象がある。そうした子育てインフラが整えば、もう少し人口も増えていくと思う。

利用できる土地が少ないことについて、土地利用計画で方向性を示していくということか。

（事務局）

学童については、施設は増やしているものの、支援員を増やすのが難しい状況。

委員のご意見のとおり、利用できる土地がないことに対して、土地利用計画で市の考え方を図示していきたい。詳細は次回ご説明します。

7 第7次鳥栖市総合計画の素案について（議題4）

<事務局より説明>

（会長）

ただいま、第7次鳥栖市総合計画策定の素案について説明いただきました。

主な取り組みと指標について、前期基本計画の評価を踏まえた変更、社会情勢の変化を踏まえて変更をしたいとのことでした。

素案ではありますが、事務局の説明を受けて、何かご意見等ありましたらお願いします。

なお、今回は各論、総論どちらを述べたらよいか。委員の意見を反映させるのは今回で終わりか。

（事務局）

幅広くご意見をいただきたい。なお、詳細は次お示しするため、その際にしっかりと議論の時間を設けたい。

（委員）

現時点は案で、次が本番ということ。

指標は現在だとクリアできているように見えるし、評価できる。男女共同の指標について、講演会等の数字は市以外の様々な団体が主催したものが入っているのか。

（事務局）

入っています。

（委員）

一部の団体だけでなく、市を含む多くの団体が取り組んでいる事業だとわかるような記載にしていなければ。

男女共同の分野は、5年前は女性の社会進出のみが目標だったが、大きく進捗し、男性が家庭に参画することが重要になってきていると感じている。その考え方の変遷を現状と課題に含めていただけたら。

（委員）

指標について、「事業の実施回数」というものが多い印象。目標は達成しやすいだろうが、成果が伴うか疑問。

特に、まちセンの講座など、バリエーション豊かにするのはいい事だが、参加者が少なくては元も子もない。次回までに検討いただけたら。

まちづくり推進センターのあり方について、以前は公民館兼用だったので、高齢者が集い交流する場だった。また、仕事終わりの方や障害者など、様々な人が気軽に立ち寄ることのできる居場所でもあった。そうした居場所機能をまちセンに付加するというのを検討いただきたい。

（会長）

指標を達成することに固執しすぎない指標にすべき。

（委員）

市内には自習室が少なく、友人が困っている。最近、田代の生涯学習センターが自習室として使用できるということがわかったところ。

青少年の居場所としては、僅かでも溜まれる場所であればいいので、それをまちセンが担えたらいいと思う。そこから生涯学習やボランティアに繋がると思う。

集える場所がないと、鳥栖は住む場所で、活躍する場所じゃないと思われてしまう。

（委員）

居場所づくりについて、施設が必要なのはもっともだが、行政的にはコスパが悪いと思う。子育てと観光資源を合わせるとか、新結合を産めばコスパもよくなるし、相乗効果も生まれると思う。

（事務局）

たくさんのご意見をいただいた。個別具体的なものを落とし込むことは難しいが、方向性として掲げることのできる部分は取り入れていきたい。

市としても、若者の居場所が求められていることへの認識はある。

（委員）

社協で土曜日に学習室開いている。コロナ禍以降利用人数は戻っていないので、広報頑張りたい。

（委員）

若者はポスターとかチラシを始め、市からの情報発信自体をあんまり見ていない。SNS 等が目

触れることはあるものの、そこから自分で掘り下げて調べず、表層的な情報で終わってしまう。若者にもしっかり情報を届けるためには、表層まで情報を持ってこないといけない。

また、若者としては遊ぶ場所も求めているが、遊ぶなら福岡や佐賀など市外でとのイメージがあるため、そういう意味での居場所も必要だと思う。

(会長)

行政が、単に人々が漫然と集まれる場所を作ることが「居場所づくり」ではないということ。ご指摘の点は民間との協力も必要になってくるだろうが、とても良い意見だと思う。

(事務局)

たくさんのご意見をいただいた。第2回審議会では時間をとってさらに議論いただければ。

(会長)

事務局からの説明にあったように第2回審議会では具体的な指標、土地利用計画までの素案を示されるようですので、各委員の方は内容について十分にご検討いただき、次回審議会に臨んでいただきたい。

8 その他

- ・ 次回の日程調整について
- ・ 本審議会の議事録の公開について